

## 第5回まち・ひと・しごと戦略茶話会発言要旨

日 時	: 平成 27 年 8 月 4 日 (火) 19:00~20:30
場 所	: 社会福祉センター
テーマ	: 安心な住環境
参加者	: 7名 (それぞれの分野で活躍している若手のかた)
市職員	: 6名

### 1. 話題提供

資料を基に話題提供

### 2. 意見交換

司会者： 湖南省の公共交通についてはどうですか。

参加者： 「JRやバスなど公共交通の利便性の確保」ということで、私は通勤の際に、自転車で行く時とバスで行く時があります。通勤時間帯のバスの本数は非常に少ないのです。それにも関わらず、普通の大きなバスです。かと思えば、バスの運転手に尋ねると、学生が乗り下りする時間帯は、満員で乗れない時もあるそうです。

草津市では豆バスと言って、コンパクトなバスが走っています。試験的に走っていた時は 200 円ぐらいで乗れました。コンパクトなバスの方が道も走りやすいですし、すれ違う所もかなりあります。小さいバスを走らせればいいと、私は思います。その方が効率も良いように思います。そして本数を増やせば、利用者も増えるのではないのでしょうか。利用者の立場からすると、地域の足にもなると思います。

参加者： 湖南省でも、大きいものから大・中・小、中には 11 人乗りの小さなものも走っていたと思います。組み合わせといますか、効率的にするのは大事です。ただそのバスは、学生や社会人などいろんな方が利用される中で、乗るタイミングをつかむのが難しいです。

バスに乗る人口が減っていくのであれば、細かく周期を練っていかないと。

参加者： 保健センターに用事がある時にバスを使いたい、という声はよく聞きます。

司会者： 保健センター行きのバスがあまりないということですね。

参加者： 高齢者も夏見の保健センターに行くのに、バスが遠くなったと聞きます。病院にはお年寄りのかたも行くことが多いので、やはりバスがとても不便で、時間的にも。病院から直接出て行くような送迎バスがあつたりしますが、直接行くバスがあれば便利だと思います。

司会者： 高齢者がバスを望んでおられるという話は、こちらにも入ってきます。バスの路線も時間も合わないというのであれば、高齢者の皆さんはどういう形で移動されているのでしょうか。

参加者： 家族に頼んでいます。一緒に暮らしている場合は、その日は休んでもらわなければなりません。介護保険を使っておられるかたは、介護タクシーを使えるのですが、50 歳代ぐらいではまだ運転されているかたが多いので、家族やご主人が送迎しています。

司会者： それは買い物などではなく、ほとんど病院ですか。

参加者： 石部ですので、平和堂ぐらいまでは頑張って行けるかたもありますけれども、離れていると、帰りに歩いてとか自転車に乗ってというのは無理ですので、回数が減ってでも家族に連れて行ってもらうとか、行くのではなくて、ほしいものを注文して持ってきてもらう人が多いです。

参加者： 今は平和堂やコンビニでも配達をしてくれますから、そういうのを利用する人が増えています。

参加者： 私の出身は関東ですが、若い人の話を聞くと、京都や大阪に遊びに行つて帰ってくるのに、バスが早くなるし、バスが少ないからと言います。私は草津に住んでいて、勤め先が湖南省ですが、「たった2日の休みのために草津に住むのか」と言われるのですが、そのたった2日のためにでも栄えた場所に住みたいです。普段は車で移動しています。

うちの会社で言えば、湖南省に住む人は、寮に住んでいる割合が高いです。

司会者： 結局、こちらに住むためには免許を取つて、車を持たないと移動に困るのですね。

参加者： 私は結婚しても湖南省には住まないでおこうと思っています。やはり交通が不

便ですので。草津線は本数が少ないですし。

参加者： 人によりますが、言うほど頻繁に京都には行かないので、湖南省に京都に行かなくてもいいようなおしゃれなお店があれば、電車の終電とかが気にならなくなってくると思います。

参加者： 湖南省には若者が集えるような場所はありません。

参加者： 女の人が出て行かず、湖南省にいたいと思うためには、安心して子どもを育てる環境が必要ですし、それには治安が要になります。児童手当を上乗せされるよりも、お金では買えない安全の方がほしいです。

湖南省には外国のかたも多く来られていますが、一般的に外国人が増えると治安が悪くなるというイメージがあります。でもそうではなく、国際色豊かなものと、おしゃれなイメージに替えられたらなと思います。

司会者： 次の「快適で暮らしやすい住環境」のところで、何かご意見はありますか。

参加者： 湖南省は食事をしたりするところが整備されていないというのが現状です。どの場所に行けば何ができるのかというのが、明確でないですね。それは駅前に関してだけでなく、いろんなところでそうかも知れませんが、車社会で生きていく生き方が必然と決まってくると思います。

コミュニケーションツールとしての食事の場というのがなくなってきています。以前は会社とか取引先と食事をして話して、そこから新たな仕事ができたり、というのにつながってきていました。でも、企業自体がそういう付き合い方をやめてきたことと、交通機関がないから、帰りはどうするの、ということでコストがかかって、なかなかそういう機会も持たなくなっています。だから、新しい人がこちらに来るとなると、やはり草津を選びます。で、食事会をしましょうかとなった時には、湖南省に工場があっても草津になります。それは、その後の場所に行きやすいからというのもあります。

湖南省でもどこか開発地域の場所を定めて、人が集まって楽しんで、家に安心して帰れる、そういう流れをつくる必要があると思います。車社会に対応できるような周遊バスとか、夜の時間帯でもフォローできるような環境があればいいと思います。

需要はあるのに、受け入れ態勢を整えないために、湖南省外へ行ってしまっている状況は非常に歯痒いです。

京都・大阪となると若い世代になっていきますが、実際 30 代・40 代が住みよい

まちとなると湖南省ではないのです。大阪京都まで行く元気はなくても、守山や近江八幡、野洲なら行けるとか。

どういう世代に対して、どういうマーケットが必要で、どうアプローチしていくのか、というのが明確になっていかないと無理だと思います。ターゲットを絞らずに、すごく幅広い層を対象に考えていると、物が売れない時代になってきています。

湖南省のまちづくりに対しても、今後の湖南省を見据えて、雇用者が次々入ってくるようなまちなのか、あるいは高齢者が住みやすいような環境にするのか。それともこれから若者を増やしていこうという目標があるのであれば、例えば、子どもが住みやすいようなまちにしていくとか。どっちつかずというか、どちらにもうまくいくようにというのはいけないと思います。

明確に、どこの層に住んでもらうには、どういうふうなまちづくりをすればいいのか、というのを決めた方が私はいいと思います。

司会者： 初めに言いましたこのグラフで、95 年後には人口が3分の1になる。しかし、こういった施設も含めて、日本全体の社会インフラは1億 2,000 万人のための社会インフラです。道路から橋から、この建物すべてを3分の1の人口で維持するののかと言えば、絶対に無理だと思います。ですから、今の段階で、何をターゲットにして施策を進めるかということ、今は日本全国の自治体が模索している最中だと思います。今、このタイミングを逃して、95 年後にこういう状態になれば、これらの建物は維持できなくなります。

参加者： 例えば、子育てをしている人を集めて、まちづくりの要望を聞いてその答えをデータ化して、それに対してどうしていくか、という方法もあると思います。

司会者： 切り口として、「快適で暮らしやすい住環境」「防犯・防災」「福祉の充実」などを挙げていますが、何かヒントになるご意見があればいただけたらと思います。

参加者： 防災のことについてですが、先日 PTA の懇談会で出た話ですが、湖南省では工業のまちですので、昼間に仕事のために走っている車がたくさんあります。それらの車の人たちが、地域を見守っている目である、ということが分かれば、不審者の防止になるのではないかと思います。わざわざ、安全パトロール隊のように時間を決めて巡回するのではなく、普段からその場にいる人たち全員が安全パトロール隊のような役目を果たすことが分かれば、防犯対策になるのではないかと思います。

司会者： 市内の各企業の営業車が、パトロールするという取り組みができればいいですね。企業に防犯のステッカー貼って走ってもらえないかという話になると思います。

参加者： 市がそういったことを決めて企業に徹底されている、しかもこれから入ってくる企業はそれをやらなければならないという、これを市が条例として定めることによって、ひとつのモデルケースとして全国発信することができます。これは湖南市のアピールになります。

司会者： ブランディングということで、湖南市の特長を出していかなくてはならないということですね。

参加者： これだけのことをやっているということで、魅力を打ち出していかなくてはなりません。「安全なまち」というのは、とても面白いアイデアだと思います。

参加者： 「子ども 110 番」みたいなものもありますが、そういう所は留守の場合が多いです。

参加者： デイサービスの利用者の送迎の際、安全パトロールということでステッカーを貼って、送迎の時に回しながら、送迎をやっています。そういうのが広がっていけばいいと思います。それで地域を走っていますので、石部で認知されているかたは多いと思います。パトロールで走っているのは乗用車です。

参加者： その車がパトロールをやっているということを周知しておかないといけません。このステッカーは時々見っていますが、警備会社の車なのかと思いました。これはパトロールの車なのだとすることを市で、周知の方法を考えてほしいと思います。

司会者： 高齢者の防犯・防災についてはどのような注意点や、今後必要な取り組みがありますか。

参加者： 石部では自主的に助け合い委員会のようなものをやっていますが、それによってつながりが強いように感じます。小地域福祉活動とって、各区で3世代を対象にしたいろんな活動をしていますので、近所の人のもよく知っていますし、地域で助け合っているように思います。

司会者： 同じ地域でも古くからある地域と、新興住宅の地域がありますので、温度差は

あるかと思います。高齢者の見守りについてはどうですか。

参加者： 民生委員が動いていたり、湖南省には高齢者支援センターがありますので、何かあったら私たちにも市から連絡があり、すぐに対応ができます。新興住宅でも助け合いは進んでいるように感じます。しかし、高齢者と違う世代とのつながりがあまりないように思います。

司会者： 高齢者と違う世代との交流を進める必要があるということですね。でも、それはスタッフがいないからできないということですね。

参加者： 湖南省は一人暮らしのかたは、どれくらいおられるのでしょうか。

司会者： 全国の平均的にはおられると思います。ここでは、詳しい数字は分らないですが。医療に関して、例えば、お子さんが急に熱を出したとか、市内の状況について、こうあるべきだというものがあればお願いします。

参加者： 検査をしなければならぬという時は、済生会病院に行きました。しかし意外に遠いですし、面倒だなと思いました。どうしても大きな病院でないと駄目なときはあるのですが、できるだけ、もっと近くにあればいいなと思いました。子どもを病院に連れて行きたい時、土日は仕方ないのかもしれませんが、他の大きな病院に行っても小児科医の先生がいないとか、ありますね。

参加者： 少し熱を出したぐらいではなくて、命がどうなるかという時に、絶対に安心できるのは済生会病院です。私であれば、遠くても済生会病院に行きます。

司会者： 安心できる医療機関というのが大事です。医療機関というよりは先生でしょうか。

参加者： そういう意味では口コミは大切です。看板に「手厚い医療」と書いてあったとしても、実際にはそうでなかった、と口コミでは評価が低かったりすることもあります。

司会者： 若いかたでも病院に行かれると思いますが、〇〇さんはどうですか。

参加者： 近くの湖南労働衛生センターに行きますが、診療時間の終了が早いので、仕事が終わった後では行けません。仕事を休まないと診察を受けられない。そうなる

と、なかなか病院にいけない。市がやっているものなので、もう少し30分でも延長してもらえれば、という思いはあります。

司会者： 仕事をしている若い人は、風邪の症状だったら、仕事を休んでまで行くのは難しいというのはあるかと思います。

参加者： 医療機器の話ですが、最新の医療機器でなくてもいいのですが、病院ができてから随分と経っているのに、その当時入れた設備・医療機器をいまだに使っている。新しく導入された機器がないように思いました。風邪ぐらいならいいのですが、例えば、CTやMRIでも、最新のものでないと発見できないレベルがあります。また、画像などのデータの処置のスピードは、1分でも早い方がいいです。そこで適切な病名が診断されて、適切な処置が行われたら、それによってまた元気になれるかたもいるかも知れません。処置が遅れたがために言葉を失うかたや、下半身や右半身が動かなくなるかたなど、いろいろと出てくると思います。そういうことを考えると、設備の更新もある程度は必要だと思います。

司会者： あと、子育てでお困りのこと、こんなふうであれば女性が社会に進出できる、といったご意見があればお願いします。

参加者： 今は結婚する時期が早いと遊べないので損だというイメージがありますが、独身だけが貴族ではありません。

司会者： 「子どもが居ても楽しいよ」という環境を作るといえることですか。

参加者： 意識を変えていかなければならないと思います。子どもがいるとリスクがあるとか、楽しくないとか。本来、そんなはずはありません。子育てを楽しみ、上手になるべきです。

参加者： 子育てをしながら活躍できる場づくりも必要なようですね。子育てサークルでは、スタッフを募ったりして取り組んでいます。スタッフには、いろんな人がいます。そんなことができるのならうれしい、といって活動してくれている人もいます。

参加者： 子育て中は時間だけがあるので、家に居ながらでもできることがあると思います。子育てで社会と離れる女性の気持ちになって、それでも社会のためになれる仕事もあると思います。

参加者： 戦争時などと比べると、今の方が子育ての環境が整っているのに、自分たちが楽しめない、と思う人が多いように思います。楽しむのは自分次第のような気がします。

参加者： 本来は、自分たちが何かをやるという前提があって、行政から環境を整えてもらうとか、支援を受ける、というがあると思うのですが、そう考えてない人も多そうですね。将来、子どもたちの負担になるので、仕組みを考えないといけないとも思います。

司会者： まだまだ、行政からサービスを受けると思っている人が多いですね。今までの子育てでお困りのことがあったら、何か教えてください。

司会者： ○○さんは、子育てには参加している、という意識がありますか。

参加者： 男性が育児でできることと言えば、仕事に行く前と、帰って来てからお風呂に入れたり、少しの間みている、休みの日にみているなど、接する時間は限られています。

しかし、私はできるだけことはしていたと思っています。一つ思ったのは保育園の時間に関してで、朝もっと早くからみてほしい、というのは考えました。

参加者： 私は仕事ばかりして、子育てには土日ぐらいしか関わっていなかったです。

司会者： おそらく子育てをされている夫婦の男性のほとんどは、休日は面倒をみるけれども平日はみられないという感じではないでしょうか。

参加者： 休みに子どもを連れていける場所があまりありません。プールも雨山だけしかありません。地域によっては、市立幼稚園がなく不便に感じていることがあります。うちの会社には子育てで何年か休めるという制度はありますが、使う人はいません。

司会者： それは前例がないと休みにくいとか、そういうのもあるのですかね。でも、せっかくそういう制度があるのであれば、皆さんが率先して利用されるとお母さんの方が社会に進出しやすいということもあるのではないかと思います。

防災面で何か意見があればお願いします。市としては、消防団や地域の自主防災組織の強化を進めています。災害は起こるものですので、それをいかに減災し

ていくかというものですが。

参加者： 防災の日というのが、あるんですね。

司会者： 湖南省の防災の日は10月9日で、一斉にその前後に各自治会や市で、地震や風水害を想定した防災訓練をします。

参加者： 実際に災害が起こった場合、どう動けるかというのは不安です。いつ起こるか分からないですが、地震体験や消火訓練など、日ごろの訓練が大切だと思います。

司会者： 起震車でもいろんな地震のパターンがあります。例えば、阪神・淡路大震災のパターンなど地震にもいろんな種類がありますが、あれを実際に体験すると地震は怖いものだと思います。

参加者： 消防団があることをご存知のかたが少ないと思います。私も声を掛けてもらえるまで知りませんでした。地域に消防団があることを知らない人が多いと思います。消防団があることを知ると安心できると思います。

司会者： 地域で防災活動をされる時に、消防団が参加しているので、地域のかたは消防団が近くにいるということは、多分ご存知だと思います。

参加者： 消防団があることは知っていますが、身近には感じないです。

司会者： いろいろな冊子やホームページに、いざという時にはこういう物を持って逃げまじょうといったことは書いてあります。消防団の活動のひとつとして、地域でそういったことをしていただいてもいいかも知れません。

参加者： 体感学習などを行政の方でやっておられると思いますが、どうやってPRして人を集めるか考えてほしいと思います。非常に災害の少ない恵まれた地域で暮らしているためか、危機管理意識が薄いといいますか、危機感を感じていないというのが実際のところだと思います。湖南省ではいろいろな防災マップのような物を作っていますよね。

参加者： 皆さん、知っていましたか。知らなかったのではないですか。これが現状だと思うのです。素晴らしい試みをされていたとしても、それが活用されていません。それをどのようにして使って、どのように啓発していくのかというところを考え

ないともったいなと思います。

司会者： 地域の防災リーダーとして防災士というかたがおられますが、ご指摘のように、誰がしているのかも分からないという話だと思います。地域の皆さんと共に活動すれば、あの人が防災士なのかということが分かるようになると思います。そういった取り組みは検討したいと思います。

本日は、貴重なご意見ありがとうございました。